



財務諸表に表示される数値の誤差

第2章から、個々の財務諸表の内容や表示について学びます。具体的な表示内容については各章で学びますが、初めて学ぶ場合、表示上の数値計算の誤差に戸惑うことがあります。

例えば第2章の貸借対照表では、流動資産、固定資産および繰延資産の合計が資産合計になります。これらは会計数値ですから、本来の数値は1円の単位まで計算されます。ところが各計算書を開示（公表）する場合には、通常、百万円単位あるいは千円単位で表示されることになっています。単位未満の処理に決まりはありません。四捨五入が想定されますが、実際に一番多いのは、単位未満を切り捨てにする処理です。いずれの場合も、時として次のような計算上の誤差が末尾の桁に生じます。

（本来の数値、単位：円）

（開示数値、単位：千円）

＜単位未満・四捨五入＞ ＜単位未満・切り捨て＞

流動資産 234,567
固定資産 876,543
繰延資産 10,000
資産合計 1,121,110

流動資産 235
固定資産 877
繰延資産 10
資産合計 1,121

流動資産 234
固定資産 876
繰延資産 10
資産合計 1,121

開示数値は、各項目ごとに単位未満処理をします。そのため、事例では、四捨五入であれ、切り捨てであれ、流動資産＋固定資産＋繰延資産＝資産合計になっていません。ここでは、3つの項目の合計例ですが、実際の財務諸表ではもっと多い項目の加減算もあり、誤差がさらに大きくなることもあります。もちろん誤差が出ない場合もありますが、開示数値の単位未満処理に関してあらかじめ留意しておきましょう。ただし、財務諸表を読むという観点からは、この誤差を気に留める必要はありません。